

岡崎市内線の歴史

(明治21) 09.01	浜松～大府が開通、これにより東海道線は東京から長浜までがつながった。 官設鉄道（のちの国鉄・現JR）岡崎停車場開業
(明治31) 02	岡崎停車場が町の中心から約4km離れていたため、それを結ぶ交通機関が必要になった 「岡崎馬車鉄道株式会社」設立
(明治32) 01.01	実際は4日前の1898（明治31）.12.28に開業したという記録がある 馬車鉄道で岡崎停車場と殿橋の南側約3.3kmが開業（軌間762mm・単線）
(明治40) 06.22	乙川（菅生川）を渡って殿橋まで線路を延長
(明治44) 09	社名を「岡崎電気軌道株式会社」に変更。動力を電気に、軌間を1067mmに変更することを決定
(大正元) 09.01	この年の7.30に明治天皇が崩御、その日から大正時代となる。 電車運転開始（電化・改軌工事が完成し、電車4両で運転開始）
(大正11)	岡崎停車場～殿橋を複線化
(大正12) 08.08	愛電の東岡崎～国府は1926（大正15）.4.1開通、国府～吉田（現・豊橋）は1927（昭和2）.6.1開通 愛知電気鉄道の東岡崎駅が開業（これにより愛電は神宮前～東岡崎開通）
(大正12) 09.08	殿橋～井田を延長開業。単線
(大正13) 12.27	井田～大樹寺～門立（もだち）の郡部線（鉄道線）が開業。市内線は大樹寺まで乗り入れ
(昭和2) 04.16	三河鉄道と合併、三河鉄道の岡崎市内線となる
(昭和16) 06.01	名岐鉄道と愛知電気鉄道が1935（昭和10年）に合併し、名古屋鉄道となる 名古屋鉄道と合併、名鉄の岡崎市内線となる
(昭和20) 07.19～20	岡崎はB29の空襲により多大な被害。岡崎市内線も大きな被害を受ける
(昭和26) 12.01	旧西尾線は、1911（明治44）年10月30日に開業した軌間762mmの軽便鉄道。1929（昭和4）年に改軌・電化されたが、戦時中の1943（昭和18）年に不要不急路線として休止された。 戦時中に営業休止された旧西尾線（岡崎新～西尾）の一部、岡崎新～土呂を福岡線として復活 岡崎新→岡崎駅前、土呂→福岡町、岡崎市内線の電車が福岡町まで乗り入れ
(昭和29)	本町通り拡幅に伴い、殿橋～康生町を複線化

(昭和37) 06.16	大樹寺～岡崎井田～岡崎駅前～福岡町はこの日限りで廃止。サヨナラ運転を行う
(昭和37) .6.17	岡崎市内線が廃止、バス化された